

嵯峨野だより

紅



嵯峨野病院

在宅療養あんしん病院登録病院
www.jinpukai.or.jp/sagano/hp

Vol.55

2018WIN.



目次

嵯峨野だより発行理念

新年のご挨拶 - 院長 小松建次

院内行事のご報告

喫茶もみじの会 秋祭り

宇多野小学生による演奏会

クリスマス会 餅つき

地域健康教室／できごと

日本慢性期医療学会 in 仙台

新入職員のご紹介

在宅療養あんしん病院について

今後のイベントのお知らせ

交通アクセス



嵯峨野だより発行理念

目的

嵯峨野病院並びにその関連施設における包括的組織活動が広く社会から信頼を得るべく、その要望に対応し、よりよく情報を活かすこと並びに職員間の一層のコミュニケーション向上に資することを目的とする。

指針

- Ⅰ 地域社会の関連施設との連携
- Ⅱ 施設としての利用者の促進
- Ⅲ 職員間のコミュニケーション促進と改善

平成26年4月制定

一般財団法人仁風会 嵯峨野病院 機関誌委員会

まごころ医療宣言

患者様に寄り添うことが何より大切と考えるからこそ、私たちは以下の10項目を宣言します。【平成7年制定】

1. 患者様とお呼びします
2. 患者様には常に真心と気配りそして優しい言葉と笑顔で接します
3. すすんであいさつをします
4. 患者様から頂き物はしません
5. いつも快適で明るく清潔な病院づくりに努めます
6. 患者様には常に適正な医療を提供します
7. 医師による説明と患者様の選択による医療を進めます
8. 患者様のプライバシーを尊重します
9. より良い医療が行えるよう研修・研鑽に励みます
10. 患者様の人生が最後まで豊かでありますようその意志を尊重します



新年のご挨拶

嵯峨野病院 院長 小松 建次

戌歳の新年あけましておめでとうございます。皆さまには良き新年をお迎えになったこととお慶びを申し上げます。

本年は十干十二支では戊戌（つちのえいぬ）であります。

新しい年を迎えるたびに自己の人生を振り返り、また新たな思いで希望をもって進んでゆくための機会としたいものです。

ほんの一例ですが、人生を四季に分けて考える方法があります。

つまり春はゼロ歳から二十歳の期間、夏を二十歳から四十歳、四十歳から六十歳を秋、冬は六十歳から八十歳以上として、春は主として学業の時代、夏は社会での活躍の時代、秋はその活動の成果として実りの年代であり、社会的に指導者や管理職に就くときであります。六十歳からはそろそろ現役から退く年代であり、また後進の指導的立場となる世代であります。

このような人生の節目とは関係なく、長き友情で結ばれた友人という存在も人生では大切なものです。若い時代に交わりを結び、一生涯にわたりその友情が変わらないというような人は、お互いに努力し、励ましあい、勉強しあってきた仲でありましょう。しかし人生には運不運というものに大きく支配されることがありますが、そのようなことは、この熱い友情で結ばれた仲間同士には少しも問題にもならないと思います。世間的な成功、不成功などにはいささかの影響も受けない固い友情こそ古ければ古いほどありがたいものです。反対に人生

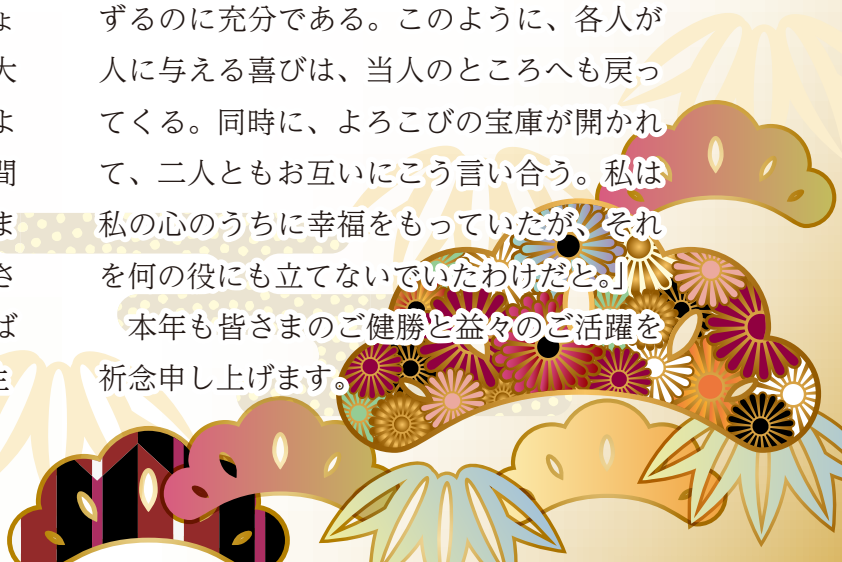
の節目ごとに常に新しい友人を求めて、そこからの刺激や有利な手段などを得たいなどと願っているような友人にはこの種の心のよりどころなどないと思います。しかし友人などをよりどころとせず、すべて自分ひとりを頼みとして、どんなに辛く苦しいことがあっても、すべて自己の胸に納めて、友人の同情や慰めなどは求めようとしない。このような生き方もまたひとつの生き方として立派な生き方であります。

しかし常に変わらぬ古い友人を持っている人は幸福であり、その友人を大切にしなければなりません。また絶えず新しい友人に恵まれる人も幸福であります。

人間はある年齢を過ぎますと、自分自身にそれだけの魅力が無ければ新たな友人を得ることは難しくなると私は思います。

アラン（1868～1951年、フランスの詩人、哲学者）は、その幸福論の中で「友情には素晴らしい喜びがある。喜びが伝染するものであるということに注目すれば、このことは難なく理解される。私のいることが友人に対して少しでも本当の喜びを与えれば、その喜びを見て、今度は私が喜びを感じずるのに充分である。このように、各人が人に与える喜びは、当人のところへも戻ってくる。同時に、よろこびの宝庫が開かれて、二人ともお互いにこう言い合う。私は私の心のうちに幸福をもっていたが、それを何の役にも立てないでいたわけだ。」

本年も皆さまのご健勝と益々のご活躍を祈念申し上げます。



院内行事のご報告

10/27 喫茶

患者様が作られた「紅葉と里山」の貼り絵を飾り付けた会場で、京都や奈良の紅葉風景のDVDを上映し、暑い夏から過ごしやすいくちへと移ろう季節を感じながらプリンやジュースを召し上がっていただきました。



11/17 秋祭り

はち巻き・法被姿の職員とともに、たこ焼き・焼きドーナツ・わた菓子でお祭りらしい味覚を楽しみながら、太鼓に合わせて手をたたいたり、歌にゲームにと、時を忘れて楽しいひとときを過ごしていただきました。



12/19 宇多野小学校生による演奏会

宇多野小学校からボランティアの小学生たちが来院し、この日のために練習した歌やリコーダーなどの出し物を披露してくれました。また患者様へのプレゼントもあるなど、にぎやかな1日となりました。



12/22 クリスマス喫茶

この日は賑やかに飾り付けされた高さ 2mの大きなクリスマスツリーを筆頭に、クリスマスらしさを演出する折り紙などを随所に飾った素敵な雰囲気の中で、サンタ姿の職員がカルピスやコーヒー、温かいお茶、ロールケーキを提供させて頂きました。また、ささやかながらプレゼントをお配りしたり、歌や記念撮影では職員も一緒に盛り上がるなど、楽しいクリスマスとなりました。



12/28 餅つき

年内最後の恒例行事、餅つきを行いました。とても寒い日が続く年末ですが、お餅をついて楽しいひと時を過ごす、寒さも吹き飛んだのではないのでしょうか？

患者様と職員達の楽しげな声が響く中、「よいしょ」の掛け声と共に職員が力いっぱい杵を振り下ろして餅をつき、今年1年を笑顔で締めくくる事ができました。



地域健康教室のご報告

10月28日

「運動器不安定症と転倒予防」

講師：嵯峨野病院 院長 小松 建次

運動器不安定症及び運動器症候群（別名ロコモティブシンドローム：加齢に伴う骨の強度劣化、軟骨の摩耗、筋肉再生能力の低下、神経・腱・靱帯の脆弱化等の退行変性により運動機能低下が見られる場合において、これらにより身体のバランス能力や歩行移動能力が低下し、閉じこもり、転倒しやすくなった状態）の影響

で、地域在宅高齢者の転倒率は30%に達しています。

運動機能低下要素をできるだけ排除し、しっかりと予防・維持を行うことで転倒や転落のリスクは低減できるため、高齢者の方々が簡単に利用できる自己診断表や「テントウムシ体操」の紹介がありました。

12月2日

「生活習慣病と食事について」

講師：嵯峨野病院 管理栄養士 渡部 佳織里

生活習慣病の対策の一つとして、食生活が挙げられます。バランスのとれた質のよい食事を、適切な量、1日3食規則正しく食べることが大切です。生活

習慣病と食事との関連について、食生活を整える為のちょっとしたコツや工夫をまじえながらお話しさせていただきました。

できごと

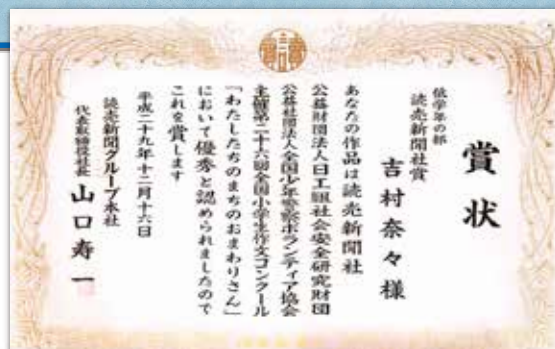
リハ科吉村主任のお嬢さんが快挙



第26回全国小学生作文コンクール「わたしたちのまちのおまわりさん」で、リハビリテーション科 吉村主任の長女奈々さん(小2)が、読売新聞社賞に選ばれ、西京警察署から感謝状が授与されました。

通学への不安を交番に相談したことがきっかけで、毎日駅前で見守ってくれるようになった警察官への感謝を綴った作文です。

(読売新聞 平成29年12月14日と27日に記事掲載)



作文は下のQRコードから読むことができます。



第24回 日本慢性期医療学会 in 仙台

平成29年10月19日・20日 場所：仙台国際センター

介護と医療の報酬同時改定を半年後に控えた今回の学会では、改定の方向性や介護医療院の運営に焦点を当てたシンポジウムが目玉となりました。

当院の清水理事長もシンポジウム「見えてきた新類型！介護施設との共存で時代は開ける」で演者として登壇し、介護療養病床がたどる事となった廃止への過程を紹介すると共に、介護医療院は医療費抑制のための施設ではなく、あ



くまでも入院される高齢者の方々を中心に考えて運営されるべきものであると、強いメッセージの込められた発表を行いました。

全国から慢性期医療の関係者が集うこの学会には、より質が高くかつ持続可能な運営を模索する参加者も多く、その中で刺激を受けるとともに、当院としても学ぶべき事が詰まった2日間であったと感じました。

嵯峨野病院職員の一般演題発表

嵯峨野病院からは3つの一般演題発表を行うため、共同研究者を含め9名が参加しました。



「目標達成へのプロセス
～療養機能強化型BからAへの移行達成に向けた取り組み～」
看護部 看護主任 笠野 勢子

「意欲低下にて動作協力が得られない症例に対する介入」
診療部 リハビリテーション科 理学療法士 中村 文俊

「安心を繋げる栄養サマリー」
診療部 給食科 管理栄養士 渡部 佳織里

在宅療養あんしん病院 登録システム

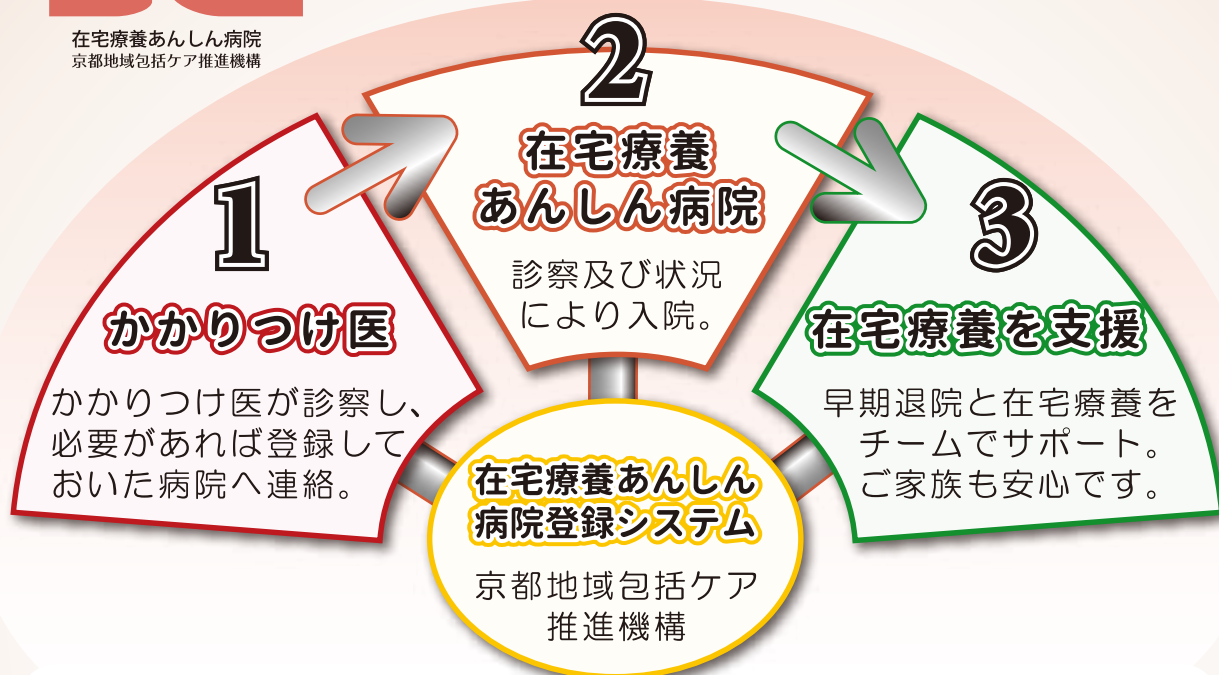
本システムに登録することで、事前にかかりつけ医と登録病院及び在宅療養を担当するチームとの連携を作り上げることができ、体調を崩された時（比較的軽度の病状変化に限る）でも、よりスムーズな受診が可能です。あらかじめお選びいただいて登録した病院で詳しい診察や入院対応を行うので、患者様やそのご家族の不安解消にも役立っています。



在宅療養あんしん病院
京都地域包括ケア推進機構

※登録の際は必ずかかりつけ医にご相談ください。

※登録申請書は、かかりつけ医、あんしん病院、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所、地域包括支援センターに設置されています。



嵯峨野病院では、外来診察や入院治療だけでなく、在宅介護関連事業も幅広く行っております。本システムご利用方法などについても、詳しくご説明させていただきますので、ご不明な点やご不安な事などがありましたら、お気軽に受付までご相談ください。

対象となる方

京都府在住の65歳以上の方で、次のような在宅療養中の方が対象となります。

- 訪問診療を受けている方
- かかりつけ医に定期的に通院されている方

登録無料

要介護認定を受けている方であれば、嵯峨野病院を「あんしん病院」として登録することができます。（指定番号：シ-4）

今後のイベント開催予定

2月 1日(木) 13:30～ 「節 分」

場所：嵯峨野病院 1階 食堂談話室

3月 2日(金) 13:30～ 「ひな祭り喫茶」

場所：嵯峨野病院 1階 食堂談話室

3月23日(金) 15:45～ 「第10回 JINPAS」

場所：嵯峨野病院 1階 食堂談話室



嵯峨野病院グループ 交通アクセス

①

嵯峨野病院

〒616-8251

京都市右京区鳴滝宇多野谷9

TEL：075-464-0321

FAX：075-461-7383

②

嵯峨野病院居宅介護支援事業所

TEL：075-467-8726

訪問介護事業所さかの

TEL：075-467-8736

〒616-8251

京都市右京区宇多野福王子町22番6

FAX：075-467-8007

③

嵯峨野病院 上野橋デイサービスセンター

〒615-8003

京都市西京区桂上野東町103

TEL：075-383-0900

FAX：075-383-0905



『嵯峨野だより』

題 字：理事長 清水 紘

編集委員：小松建次 称宜田明美 高橋仁美 大木直子 佐藤公哉 長野侑加

立入久仁美 寶迫真希子 松本 理 数元 彬 福島直人